

# 鶴川図書館大好き！の会第2回ワークショップ

2021年6月19日（土）

## 市民参画について考える 第2回

- (1) 自己紹介（お名前、住んでいる地域、所属とか活動1人2分で）
- (2) 前回のワークショップを振り返る
- (3) 今できることを考える

☆現在進んでいるイベントについて

☆図書館書庫の活用を具体的に考える

☆秋に向けて広場を使って

第3回図書館応援まつり等の企画

# 4月29日のワークショップを振り返って

1) 2月と3月に行われた市主催ワークショップについて説明

2) 市民参画によって支えるとはどういうことかについて

八王子市、小金井市、藤沢市の図書館の例を挙げて市民のかかわり方を説明後、4つのグループに分かれて以下のようなことを参考にして話し合った。

A.すべての業務をNPOなどの団体に委託

B.直営だが司書職員を中央図書館から派遣し、窓口業務などを市民団体に委託

C.現在の直営を維持しながら、図書館の組織としてはスリム化し、

+  $\alpha$  の部分で市民参画して、今より魅力的かつ効率的な図書館にする

D.そのほか

# グループディスカッションの概要

第1グループ：図書館長経験者が2人、市議、高校生、市民活動家という多彩なメンバー

- ・森下さん（元田原市の館長）は、市民が運営するのは市民協働ではなく、単なる委託ではないか。市は、何も具体的なことを示さずに市民の話し合いの結果を待っている状況では。市民協働・参画というなら、飯能市のように市と市民の役割分担を明確にして、図書館としてのあり方や予算などの条件を提示し、それに市民が賛同できるかどうかを議論すべき。図書館で大切なのは、専門職員で、軸となる者がいない図書館はあり得ない。図書館の専門性の点からも直営であるべき。
- ・守谷さんからは、相模原のようにいったんNPOが受託しても数年で大手企業にとって代わられる。図書館の継続性は守られない。図書館の継続性・専門性を担えるのは直営のみ。
- ・田中市議は、市の方針が「貸出場所としてのみ残す」から変わってきたのは会の運動の成果。公立図書館のシステムで残さないと市民だけではゆくゆく追い詰められてしまうのでは。他の分野や組織の人びとも関わって話し合うことから図書館をよくするヒントを見つけ出し、授業支援など多様性を持った公立図書館として存続すべき。
- ・高橋美紀さんは、若者の立場から、残すためには、Wi-fi環境を整え地域の若い人にも愛される図書館であることが必要。市民運営も可能では。学校の合間にできるならボランティアもする。
- ・桜井さんは、市民活動をしている立場から、なんでも行政任せではなく、市民自治も大切と強調。

## 第2グループ：UR都市機構職員、市民活動家、会員2人、元館長というメンバー

- ・小山さんは、URの立場から、団地の中に図書館があることは有益だと考えている。団地の建て替えにあたって図書館については、①ハコを用意して市に作ってもらう。②場（オープンスペース）を用意して市に使ってもらうという2つの案がある。現在のところは、建て替え時期は決まっておらず、図書館が残るかどうかは、市の財政と住民の希望とのすり合わせによると説明。
- ・篠田さんは、図書館は今の時代、単に本を読むだけの施設ではない、希薄になっているコミュニティをつむぎ直す大切な役割があり、情報が集まる場所、調べ物ができる場所、イベントやワークショップができる伸びやかな場を求めたいと発言。浪江さんが生きていたら、どんな図書館、どんな活動を望むのか、考えてみることも大事ではないかと、私立鶴川図書館（旧南多摩農村図書館）を作った浪江さんにも言及。
- ・川又さんは、現在の鶴川図書館は古いので、中味を整える必要がある。市民一人ひとりの内面を築き上げるのが図書館であると発言。
- ・庄司さんは、団地の人の希望していることは、調べ物をしたり、ゆっくり閲覧する図書館が欲しいということ。ゆったりした空間が必要と発言。
- ・手嶋さんは市民参画について、現在その範囲が明示されておらず、受け皿となる市民の母体もできていない。図書館の運営は行政の責任であり、専門性・継続性を保つためにも基本的な運営は市が受け持つことが必要で、市と粘り強く交渉を続けたいと発言。
- ・篠田さんが、URと名店街が新たな団地づくりの構想を話しあっているのであれば、市民団体は名店会とのパイプを太くして新たなアクションを起こせないかと提案したのに対し、小山さんは、今、名店会の佐藤会長たちと話をしている。事業をする上では図書館だけでなく、名店会の意向も踏まえなければいけないため、まだ、計画に落とせていないと発言。

### 第3グループ：市主催ワークショップのファシリテーターと大好きの会のメンバー3名

このグループでは、市主催ワークショップのファシリテーターの清原さんが、「市民協働＝市民団体による指定管理」が市の考えだという事を繰り返し強調し、市民による指定管理者受託の可能性について一問一答のような討議となった。

- ・ 図書館の専門性を持つ人材が地域にいるかという懸念に、清原氏は、町田市にはNPOも多くあり、市民活動が活発、8万の人口を持つ鶴川地区には司書資格を持つ人もそれなりにいるはず、自分たちのしたいことを自分たちで担っていくという市民参画、市民協働は時代の流れであると繰り返し説いた。
- ・ 地域における図書館には独自の社会的機能があり、市が責任をもって市民に提供すべき重要な文化的サービスの1つ。図書館運営に関する市の明確な方針があってしかるべきで、それに対して市民がどう参画していくかというのが課題ではないかと反論が出た。⇒清原氏は、市は法的に図書館を設置する義務を負っているわけではなく、市が一旦は廃止と明言した鶴川図書館を存続させ、指定管理にすると方針転換したこと自体は、市が市民に譲歩したと考えられると答えた。
- ・ 業務委託か指定管理かという運営形態にも話が及んだ。清原氏からは、最初の1年目は業務委託、2年目から指定管理へ移行した小野路宿里山交流館の例も紹介された。
- ・ 最後に、市民側が図書館に関して専門性を持ち、新しい図書館づくりに対する構想と情熱を持った人を取り込んで活動を継続させることが大切であること、市長の権限で方針が変わるのなら、これまでの議論や活動の実績を整理し、それをもって現市長や市長候補者はじめ議会などに働きかけることが必要という話になった。

#### 第4グループ：商店会の事務局、子育て関係のNPO主宰者、高校教師、文庫主宰者というメンバー

- ・このグループは、基本的には、「現在の形の直営を維持しながら、図書館の組織としてはスリム化する。運営協議会、図書館友の会などを作って市民参画することによって、今までよりも魅力的かつ効率的な図書館にする」という、「考えられる市民参画のパターン」の選択肢Cの方向で進めるべきだということで全員一致。そのうえで、具体的にどのようなことをしたらいいか、できるかについて話し合った。
- ・直営維持の理由は、図書館の運営には専門性・継続性が必要であり、NPOや市民団体への委託ではその点で限界があり、またマネジメントには専門的知識を持った専従者が当たる必要があるとした。今の図書館はかなり削減された経費で運営されており、さらなる大幅な削減は図書館機能を低下させずにはおかない。図書館は市民の知る権利、学ぶ権利を守る基本的な場であり、市には図書館維持を前提とした対応を求めたい。
- ・市民参加は、あくまで図書館の基本業務ではなく周辺業務に限るが、市民参画によってこれまでになかった活動を伸ばすことができる。
  - ・具体案：
    - ①図書館に集まる人にゆっくり読書するスペースを確保する、読書会などを開催する、図書館に関わる各種の集まりを催すなど。これには既存の書庫のおはなし会スペースを活用するほか、商店などの2の空室の利用も考えられる。（2階の利用は後日URに確認して不可能と判明）スペース管理などに市民がボランティアとして協力すれば、図書館の魅力を広く一般に伝えることにもつながる
    - ②図書館と関わる人を増やすために、鶴川図書館友の会を作る、鶴川図書館の蔵書の特徴（児童書、小・中学生向きの書籍が充実）を明確にする
    - ③図書館の基本業務への協力としては、運営協議会を設置し、そこに市民が参加する
    - ④鶴川団地商店会としては、あくまで図書館を残すことを建替えの条件としているとのことで、引き続き商店会との親密な関係を維持する必要。

## 前回のワークショップのまとめ

前回のワークショップの結果は、まだ一つの結論には至っていません。

そんな中で、今年の夏から約10か月、どのような形で鶴川図書館を存続させたらいいかを他市の事例にも学び、仲間と話し合う中で、今の鶴川図書館をただ存続するだけではなく、より魅力的な図書館として発展させたい、次世代に引き継ぎたいという思いがだんだんと強くなってきました。

私自身としては、市民団体が業務委託や指定管理を受託するのではなく、図書館の基本のところでは市が運営し、今以上に市民に愛される図書館とするために市民が力を出すことができれば、町田市で最初の直営＋市民協働による魅力的な図書館となるのではないかと思います。

市は、住民の意見を聞いて鶴川図書館の今後を考えると議会でも答弁しています。前回のワークショップでは、高校生、元図書館長、市議員をはじめいろいろな立場の人たちが参加して、発言しました。この報告は、知恵の樹にも町田の図書館活動をすすめる会のホームページにも掲載しています。図書館の職員の方々は、私たちの報告をよく読んでいらっしゃると思います。市には今後もぜひ住民の声に耳を傾けてほしいと願います。

ここまでのことで、少し話し合いをしたいと思います。ご意見、質問などをお願いします。

# UR都市機構の企画による 絵本の読み聞かせ会 (6/27)

予約不要 **だんちでえほん** 参加無料

つるかわだんち えほん  
～鶴川団地で絵本よみかせ～

日程：6月27日(日)

時間：11:00～11:30/14:00～14:30

場所：鶴川団地商店街の広場  
(雨天時は団地の集会所にて実施)

鶴川団地に新しく住みはじめた若い男女2人組やボランティアの方が、地域のこどもたちに読み聞かせを行います！！

鶴川図書館の司書さんが選んだ、七夕にぴったりの本なので、こどもも大人も楽しめます。

参加無料、予約不要なので是非お気軽に遊びにいらしてください！！  
(参加してくれたこどもにおかしのくじ引きも行います。)

## UR都市機構の企画

今、企画が進んでいる2イベントの紹介

## 当会の企画

# つるかわ図書っこ応援隊とのコラボで 小学生のための紙芝居ワークショップ(8月)

<図書館大好き大作戦>  
第2回 小学生のための紙芝居ワークショップ

2021夏

いいとおもうよオリジナルだね

●ほんださんの作品  
「狂言紙芝居がす」  
「駐在さん」など

きょねん大好評だったワークショップをご案内します。  
先生は、紙芝居作家として活やく中の本多もがこさんです。  
小学生のみなさん、ことしの夏休みに、とびきりすてきな紙芝居をつくっちゃおう！

日にち：8月3日(火)、6日(金)、8日(日) (連続プログラムのため3日間とも参加できる方)

じかん：10時から12時まで (9時45分から手洗などの準備をはじめます)

ばしょ：鶴川5丁目集会所 ふれあいルーム

もちもの：えんぴつ、けしごむ、絵の具セット(筆あらいバケツも)  
クレヨン、スティックのり、ぞうきん1枚、水筒(のみもの)  
作品を持ち帰るふくろ(A3が入る大きさ)

参加費：なし 定員：10名 (先着順)

住所：町田市鶴川5-1

※このワークショップは、国立青少年教育振興機構「子どもゆめ基金」の助成を受けています。活動の様子を写真撮影して報告することをご了承ください。  
※十分な感染症対策をして実施します。  
参加にあたっては、マスクを着用、健康チェックのご協力をお願いします。

問い合わせ 鶴川図書館大好き！の会  
申込み先 (tel) 042-737-0687 (e-mail) rio\_bird3@hotmail.com 庄司  
●つるかわ図書っこ応援隊のホームページでも受付します。→

主催：鶴川図書館大好き！の会 共催：つるかわ図書っこ応援隊



# 鶴川図書館についての知識

☆鶴川図書館の経費と人員について

☆鶴川図書館書庫の平面図と写真  
(書庫の活用に向けて、通など気を考えるため)

(単位千円)

## 2021年度当初予算(2020年度と比較して)

2021年度

2020年度

増減

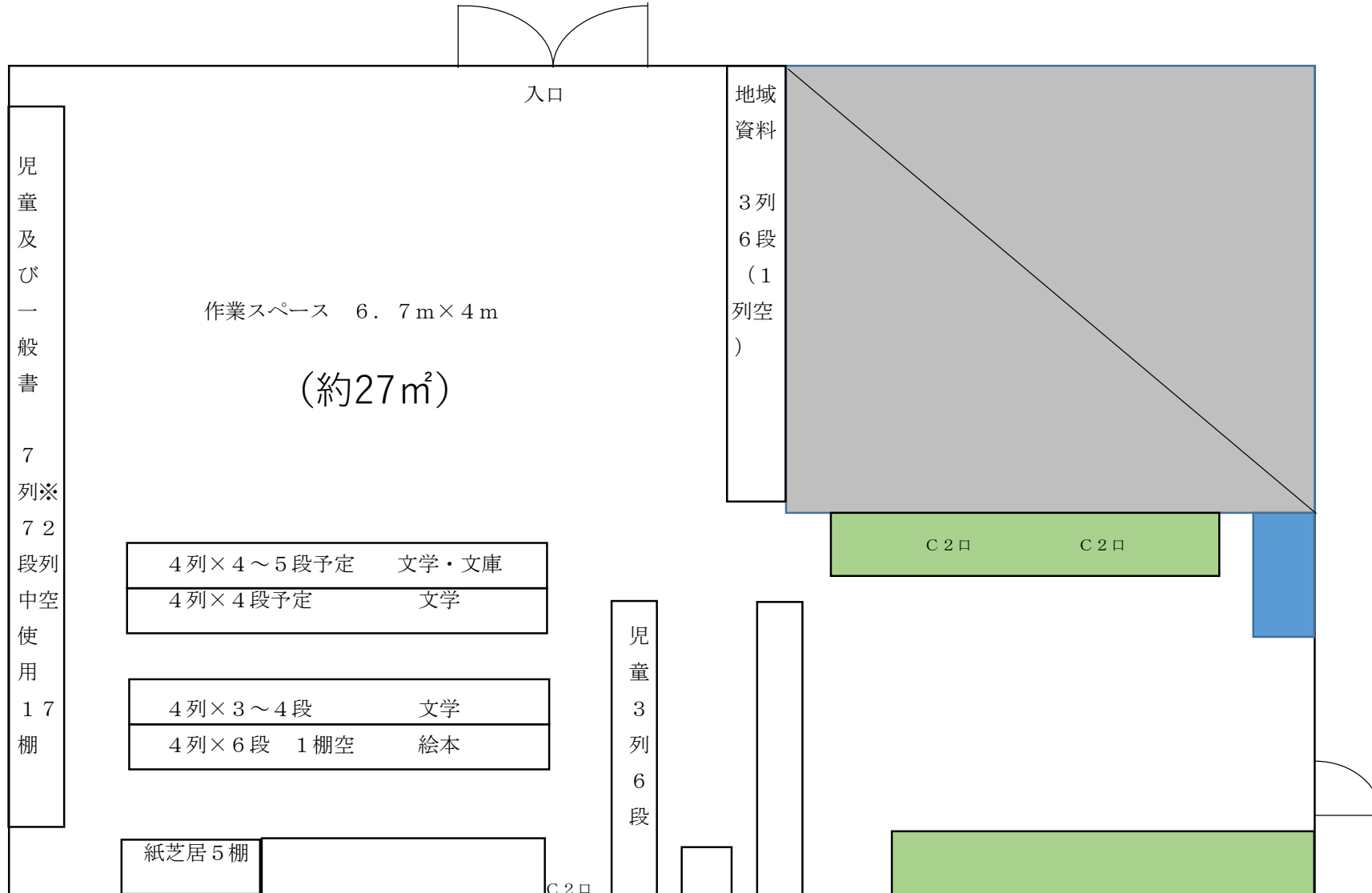
鶴川図書館費（人件費以外）	6,287	6,397	-110
消耗品	653	693	-40
光熱水	1,159	1,160	-1
電話料	127	128	-1
作業手数料	3	4	-1
機器等保守点検委託料	218	203	15
警備委託料	324	324	0
鶴川図書館費 収集・処分等委託料	43	52	-9
清掃委託料	687	687	0
複写機使用料	6	6	0
備品借上料	12	12	0
建物借上料	1,736	1,736	0
テレビ受信料	15	15	0
図書購入費	1,148	1,221	-73
清掃負担金	36	36	0
駐車場管理運営費負担金	120	120	0
職員の人数	2021	2020	
常勤職員	3	3	
会計年度任用職員（人）	8	8	
内司書	(5)	(5)	
会計年度任用補助職員	(3)	(3)	
合計	11名	11名	

# 鶴川図書館の書庫の見取り図

C=コンセント

書庫の広さ：  
約70m<sup>2</sup>

図書館の広さ  
約100m<sup>2</sup>



入口 (トイレ側から撮影)



入って突き当りの書棚



入り口入って左奥を見る  
(旧事務室)



入口からみて右手の書棚

